

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 10 日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13984

研究課題名（和文）リーディング・ワークショップによる読むことの学習の改善に関する研究

研究課題名（英文）Research on Improving Reading Instruction through Reading Workshops

研究代表者

勝田 光（Katsuta, Hikaru）

筑波大学・人間系・助教

研究者番号：30792113

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、国語科で自立した読み手を育てるために、リーディング・ワークショップの効果を検証することだった。本研究の成果は4点ある。1点目は、高等学校国語科において、リーディング・ワークショップの利点を教科書に基づく授業と比較して明らかにした点である。2点目は、小学校国語科において、年間を通してリーディング・ワークショップを取り入れることにより、いかなる効果があったかを明らかにした点である。3点目は、国語科で馴染みがないアメリカの英語科における読みの指導法の実際を記述・分析した点である。4点目は、国語科で教科書に基づく読むことの学習指導の研究・実践がどう形作られてきたかを整理した点である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、2010年頃から国語科で注目を集め、実践報告もされていたリーディング・ワークショップという新しい読みの指導法について、授業観察、インタビュー調査、質問紙調査などの手法を用いて、その効果を検証した点である。とくに、教科書に基づく授業とリーディング・ワークショップをどう組み合わせれば、それぞれのアプローチが生かされるか、年間を通してリーディング・ワークショップを実践することで児童が読み手としてどう成長したかといった点は、国語科教育実践上、意義ある知見だと考えられる。

研究成果の概要（英文）：In this project, I examined the possibilities of incorporating reading workshops into a Japanese language arts class. This project has four outcomes. First, the benefits of reading workshops in high school Japanese language arts were identified in comparison with textbook-based lessons. Additionally, I suggested how to combine both approaches in the Japanese language arts curriculum to maximize their strengths. Second, the effects of incorporating reading workshops throughout the year in elementary school Japanese language arts were found. They include (1) increased reading volume, (2) heightened awareness of reading strategies, (3) expanded genre knowledge, and (4) the discovery of favorite authors and works. Third, new teaching approaches in the United States were analyzed and their advantages discussed. Fourth, a literature review was conducted regarding how reading instruction in Japanese language arts has been historically shaped, and future research directions were suggested.

研究分野：国語科教育

キーワード：自立した読み手 リーディング・ワークショップ 読むことの学習指導 ガイデッド・リーディング
リテラシー・センター 国語科 アメリカ 英語科

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

アメリカにおける読むことの学習指導研究は、「目的に応じて本を選び、その目的にあった読み方ができる」自立した読み手を育てるために、一人で本を選んで読む個人読書の時間が不可欠であることを明らかにした (Miller & Moss, 2013)。加えて、読む力が十分に育っていない生徒が本を選んで一人で読んでほとんど効果がなく、その生徒の興味・関心や読む力にあった本を選んだり、選んだ本がうまく読めているかどうかを確認したりする教師の役割が重要であることも指摘されている。これらの点を踏まえて開発された指導法がリーディング・ワークショップである。実践家によって細かな違いはあるものの、(1) 優れた読み手が使っている方略を明示的に指導するミニ・レッスン、(2) 教師によるカンファランスがある個人読書、(3) 読んだ本についてクラスメイトと話す共有の時間、以上三つの場面で構成される。

自立した読み手を育てる効果的な指導法であるように思われるものの、リーディング・ワークショップを日本で実践するためには三つの問題がある。1点目は、日本では教科書を主たる教材として使用することが法律で定められているため、生徒が本を選んで読むリーディング・ワークショップは中心的な授業とはなりえないという問題である。2点目は、日本の小中学校の学級規模は、一クラス30人前後であるため、リーディング・ワークショップの要であるカンファランスを全員に毎回行うことはできないという問題である。3点目は、リーディング・ワークショップという読むことの指導法の意義や効果が十分に検証されていないという問題である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、国語科で自立した読み手を育てるために、リーディング・ワークショップの効果を検証することである。

具体的には、以下四点の研究課題を設定した。

- (1) 国語科における読むことの学習指導の実践・研究の成果と課題はどのようなものか
- (2) 教科書を使用することが法律で定められている国語科の授業において、リーディング・ワークショップをどう取り入れることができるか
- (3) 継続的にリーディング・ワークショップの実践を行うことにより、どのような効果が期待できるか
- (4) リーディング・ワークショップをはじめとして、アメリカにおける英語科 (English Language Arts) では、読むことがどのように教えられているか

3. 研究の方法

本研究では、上述の課題に取り組むために、文献研究、授業観察、生徒への質問紙調査、教師と児童・生徒へのインタビュー調査を行った。

具体的には、研究課題 (1) を明らかにするために、芦田恵之助による国定教科書収録教材「冬景色」を用いた授業と、垣内松三による当該授業の分析と解釈を起点とする国語科の読むことの学習指導の実践・研究について、日本読書学会が刊行する学術誌『読書科学』掲載論文を中心にレビューを行った。

研究課題 (2) を明らかにするために、高等学校国語科におけるリーディング・ワークショップと教科書に基づく授業の両方を観察すると同時に、生徒に対してそれぞれの利点と課題を質問紙とインタビューによって尋ねた。

研究課題 (3) を明らかにするために、小学校国語科におけるリーディング・ワークショップの実践について年間を通して観察すると同時に、年度初めと年度終わりに児童が読み手としての自己を振り返った文章を分析した。

研究課題 (4) を明らかにするために、アメリカにおける英語科の授業を幼稚園から高等学校まで全ての学校種で観察し、教師にインタビューを行った。

4. 研究成果

(1) 研究課題 1 の成果

国際リテラシー学会 (International Literacy Association) のデジタル・イベントの一環として、ミシガン大学教授の Nell Duke が行った講演「読むことの学習指導の科学」の内容を踏まえて、ワクチン研究との類推から国語科における読むことの学習指導の研究・実践の成果と課題を (1)

基礎研究、(2) 臨床研究、(3) 橋渡し研究、以上三段階に分けて整理した。その上で、読むことの学習指導の科学的探究に向けた展望を述べた (勝田, 2022a)。

(2) 研究課題 2 の成果

リーディング・ワークショップと教科書に基づく高等学校国語科の授業を観察し、両方の授業を受けた生徒に質問紙とインタビュー調査を行い、授業を受けた生徒がそれぞれの授業の利点をどうとらえているかを調べた。その結果、単純に、「好きな本が読めるからリーディング・ワークショップが好き」とはならず、教科書を使う授業の方が好きだと答えた生徒も一定数おり、多くの生徒は「どちらが良いか一概には言えない」と答えた。それぞれの授業の意義として、生徒があげた項目は表 1 の通りである。まず、リーディング・ワークショップでは、ミニ・レッスンで扱う読みのスキルをあげた生徒が一番多くいた。読みの楽しみ、内容やジャンルに関する知識、読書習慣がそれに続く。最後、自己発見をあげた生徒は 3 人と多くないが、インタビューをした生徒は、様々な話題の本を読むことで「自分はこの分野に興味があると気づけた」経験をユニバーサル・スタジオ・ジャパン (テーマパーク産業) を例に話した。一方、教科書に基づく授業の意義としては、同じ本を読み、その解釈をクラスメイトと交流する共同学習をあげた生徒が一番多くいた。読みのスキルの学習、短い文章を丁寧に読む精読がそれに続く。強制的に与えられた本を読む経験をあげた生徒も一定数いた (Katsuta & Sawada, 2021; 勝田, 2023)。

表 1.リーディング・ワークショップと教科書に基づく授業の意義

Reading workshop benefits	1. Reading Skills	16
	2. Reading Pleasure	14
	3. Content Knowledge	12
	4. Genre Knowledge	10
	5. Reading Habit	6
	6. Self-discovery	3
The textbook-based lessons benefits	1. Collaborative Learning	13
	2. Reading Skills	12
	3. Close Reading	5
	4. Reading Assigned Texts	5

(3) 研究課題 3 の成果

年間を通してリーディング・ワークショップを取り入れた小学校国語科の授業を観察すると共に、年度初めと年度終わりに生徒が書いた読み手としての自己を振り返った文章を分析し、その効果を調べた。その結果、年間を通してリーディング・ワークショップを取り入れることにより、(1) 読書量の増加、(2) 読解方略の意識化、(3) ジャンル知識の拡張、(3) お気に入りの作家と作品の発見、以上 4 点の効果があつたことを明らかにした (Katsuta & Sawada, in press)。

(4) 研究課題 4 の成果

フロリダ州ベイ学区における 2 つの学校で幼稚園から高等学校までの授業を観察し、教師らにインタビューとメールによる質問を行った。(1) リテラシー・センター、(2) 長編小説を読む活動、(3) 手引きのある指導、以上 3 つの国語科では馴染みのない指導法を取り上げて分析した。また、言語知識や読みのスキルを習得する学習と、創造的な言語活動の両立をどう図っているかを検討するために、1 人の教師による 1 日の英語の授業全体も分析した。その結果を踏まえて、(1) 読み書きを学ぶ方法について、生徒が選択する機会を作ること、(2) 教材や介入の程度について、生徒の読み書き能力を踏まえること、(3) 知識・スキルの習得を目指す学習と創造的な言語活動との関係について、熟考すること、以上 3 点をアメリカのリテラシー教育が国語科に与える示唆だと結論づけた (勝田, 2022b)。

文献

- 勝田光 (2022a) 「国語科における読むことの学習指導の科学的探究：基礎研究、臨床研究、そして科学の実行に向けて」『読書科学』63(2), pp.101-110.
- 勝田光 (2022b) 「アメリカのリテラシー教育が国語科に与える示唆：フロリダ州の幼小中高等学校におけるフィールド調査を踏まえて」『国語科教育』91, pp.45-53.
- 勝田光 (2023) 「読者反応理論と国語科教育：教室で本を読むことの意味を考える」*Library & Information Science News (LISN)*, 196, pp.5-8.
- Katsuta, H. & Sawada, E. (2021). Encouraging Independent Readers: Combining Reading Workshop and Textbook - Based Lessons in a Japanese High School Classroom. *Journal of Adolescent & Adult Literacy*, 64(5), pp.563-573.
- Katsuta, H. & Sawada, E. (in press). Creating a community of independent readers in a Japanese-language classroom. In Loh, C. E. (Ed.), *The reading lives of teens: Research and practice*. Routledge.
- Miller, D. & Moss, B. (2013). *No more independent reading without support*. Heinemann.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 勝田光	4. 巻 196
2. 論文標題 読者反応理論と国語科教育：教室で本を読むことを考える	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Library & Information Science News (LISN)	6. 最初と最後の頁 5～8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 勝田光	4. 巻 49
2. 論文標題 The roots of typical Japanese reading instruction: Revisiting the representative Japanese reading lessons implemented by Enosuke Ashida in 1915	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文学教育研究	6. 最初と最後の頁 105～111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15068/0002006566	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 勝田 光	4. 巻 63
2. 論文標題 国語科における読むことの学習指導の科学的探究：基礎研究，臨床研究，そして科学の実行に向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 読書科学	6. 最初と最後の頁 101～110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19011/sor.63.2_101	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 勝田 光	4. 巻 91
2. 論文標題 アメリカのリテラシー教育が国語科に与える示唆 フロリダ州の幼小中高等学校におけるフィールド調査を踏まえて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語科教育	6. 最初と最後の頁 45～53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20555/kokugoka.91.0_45	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 勝田光	4. 巻 なし
2. 論文標題 「登場人物の心情を問う」授業をどう変えるかー複数の作品を比較し、新たな小説を書くことを通して育つ力ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語論叢 (兵庫県高等学校教育研究会 国語部会神戸支部 紀要)	6. 最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Katsuta Hikaru, Sawada Eisuke	4. 巻 64
2. 論文標題 Encouraging Independent Readers: Combining Reading Workshop and Textbook Based Lessons in a Japanese High School Classroom	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Adolescent & Adult Literacy	6. 最初と最後の頁 563 ~ 573
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jaal.1135	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 勝田 光
2. 発表標題 子どもは絵本を通して戦争をどう理解するか：小中学生の読みの日米比較に基づく文学教材の開発
3. 学会等名 第93回筑波大学人間系コロキウム (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Katsuta Hikaru
2. 発表標題 Children's Understanding of War through Reading Picture Books: Comparative analysis of American and Japanese Students' Response to War Literature 3.学会等名
3. 学会等名 IRSCL 2023 Congress: Ecologies of Childhood (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Katsuta, H. & Sawada, E.
2. 発表標題 Creating readers' communities through the reading workshop in the Japanese language classroom
3. 学会等名 8th International and 51st National Conference of Reading Association of Philippines (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 勝田 光; 大隈彩香; 森大徳; 山本賢一
2. 発表標題 子どもは絵本を通して戦争をどう理解するか?: 典型的な戦争絵本と新しい戦争絵本に対する読者反応の違いに着目して
3. 学会等名 第66回日本読書学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 勝田光
2. 発表標題 国語科における読むことの学習指導の科学的探究: 基礎研究、臨床研究、そして科学の実現に向けて
3. 学会等名 第71回 人文科教育学大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hikaru Katsuta
2. 発表標題 The root of Japanese reading comprehension instruction: The conventional teaching approach and its alternatives
3. 学会等名 The Reading Association of the Philippines' 7th International Literacy Cpnference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 勝田光
2. 発表標題 アメリカの読むことの学習指導が国語科に与える示唆：フロリダ州の幼小中等学校におけるフィールド調査を踏まえて
3. 学会等名 全国大学国語教育学会2021春期大会（オンライン）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Katsuta, H. & Sawada, E.	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 -
3. 書名 Chapter 9 Creating a Community of Independent Readers in a Japanese-language Classroom. (The reading lives of teens: Research and practice)	

1. 著者名 勝田光	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 205
3. 書名 新・教職課程演習 第10巻 初等国語科教育	

1. 著者名 勝田光	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 239
3. 書名 新・教職課程演習 第16巻 中等国語科教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------